

# 6年間の学び

● 必修科目 ● 選択科目 ※科目名は法律の改正などにより変更することがあります。

	薬学総合教育科目	分野別科目	実習
<b>1年次</b> 薬学の基礎を学び、話し方やコミュニケーション能力を向上させる。	● 薬学への招待 ● 医療倫理学 ● 初年次ゼミナール ● サイエンスコミュニケーション	● 化学物質の構造と性質 ● 医薬品分析化学 ● 無機化学 ● 有機薬化学I ● 天然物化学 ● 生化学I	
<b>2年次</b> 基礎的な知識と技能を修得。薬学の学びが本格化。応用分野も学び始める。	● 薬学対話演習 ● 基礎薬学英語	● 溶液の性質と化学反応速度論 ● 熱力学と物理平衡 ● 臨床分析技術 ● 機器分析化学 ● 有機薬化学II・III ● 生薬学 ● 生化学II ● 生体情報化学 ● 免疫学 ● 分子生物学 ● 微生物薬品化学 ● 公衆衛生学 ● 衛生化学 ● 人体構成学I・II ● 薬理学I ● 生物薬剤学 <b>アドバンスト科目</b> ● 臨床心理学	● 基礎薬学実習 (物理系・化学系) ● 生命薬学実習I (生化学・免疫学)
<b>3年次</b> 専門的な知識と技能を学ぶ。患者さん対話する力や薬学英語などを修得。	● 医療薬学英語	● 物理系薬学演習 ● 薬物治療学I ● 医薬品化学 ● 物理薬剤学 ● 化学系薬学演習 ● 薬物代謝学 ● 遺伝子工学 ● 薬物動態学 ● 臨床微生物学 ● 薬局管理学演習 ● 生物系薬学演習 ● 臨床コミュニケーション演習 ● 食品衛生学演習 ● 調剤学 ● 環境毒化学 ● 医薬品情報学 ● 病態生理学I・II ● 医療統計学 ● 薬理学II・III <b>アドバンスト科目</b> ● 看護学概論 ● 医療放射化学 ● 創薬化学 ● 細胞工学 ● 病態生化学 ● 生体機能調節学 ● 生体防御科学 ● ゲノム科学 ● 薬学海外研修	● 生命薬学実習II (衛生・微生物) ● 医療薬学実習 (薬理・薬剤)
<b>4年次</b> 研究室に配属となり、より専門的な知識や技能を修得。実務実習に進むための薬学共用試験に臨む。	● 基礎薬学総合演習 実務実習に必要な学力や技能が備わっているかを確かめる全国共通の試験。知識の評価(CBT)と技術・態度の評価(OSCE)の2種類があります。試験の合格者のみ、5年次の病院・薬局実務実習を受けられます。 CBT... Computer Based Testing OSCE... Objective Structured Clinical Examination	● 環境衛生学 ● 薬事関係法規 ● 衛生薬学演習 ● 新薬開発論 ● 薬理学演習 ● 薬剤師職能論 ● 薬物治療学II ● 医療薬学演習 ● 薬物治療学演習 ● 処方解析学I・II ● 製剤学 ● 臨床薬学総合演習 ● 製剤機能論 ● 薬剤学演習 <b>アドバンスト科目</b> ● 漢方薬学II ● 専門薬剤師概論I・II ● バイオ医薬品開発論 ● フィジカルアセスメント ● レギュラトリーサイエンス	● 実務実習事前学習 ● 卒業特別研究
<b>5年次</b> 5ヵ月間の病院・薬局実務実習の後、研究活動が本格化。	● 病院・薬局実務実習 ● 卒業特別研究	● 漢方薬学II ● 専門薬剤師概論I・II ● バイオ医薬品開発論 ● フィジカルアセスメント ● レギュラトリーサイエンス	● 病院・薬局実務実習 ● 卒業特別研究
<b>6年次</b> 国家試験に向けて実力強化。個別指導を受け、卒業研究を進める。	● 卒業特別ゼミナール ● 卒業特別講義	<b>【卒論テーマ例】</b> 「糖尿病性腎症発症の初期変化に関する組織学的解析—傍糸球体細胞の変化に関する検討—」 「ヒストクロムP450 3Aサブファミリーの代謝活性に対するマクロライド系抗菌薬及びビベリンの時間依存的阻害」 「デオキシシチジンのUV反応における尿酸の光増感作用」 「シクロホスファミドの錠剤包装及び注射剤バイアルの汚染に関する定量的検討」 「X4N細胞由来エクソソームmiRNAの解析」 「情報連携を志向した薬剤関連問題に基づく薬局アリアボイドの分類に関する検討」 「L-アスパラギナーゼアレルギーモデルにおける脾細胞サイトカインの変動」 「フルビプロフェンを基盤としたβセクレターゼ阻害薬の探索」 「Fiber SPME/GC-MS法を利用した衣類洗浄評価法の構築と応用」 「在宅療養における服薬状況の現状に関する調査研究」	

## 在学学生メッセージ

3年生

薬学科 3年生  
西村 ふうあさん  
(鳥根県立松江東高校出身)



### 薬学科の魅力、印象的な授業は？

#### 「医療薬学実習(薬理・薬剤)」

薬物の治療効果や作用する仕組みについて実際に手を動かし、目で見えて深く理解します。

授業で学んだ薬物の構造や作用などの知識をもとに、コンピュータを用いたシミュレーション実習や、マウスやラットなどを用いた動物実験などを通じて仮説を検証し、考察を行います。どの薬物をどれだけ投与すると、どのような仕組みでどのように影響を与えているのか、科学的理解を深めていきます。

